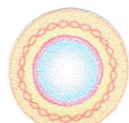


大人も注意! ぜんそくの症状

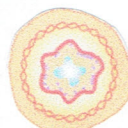


風の中にも秋の気配を感じる季節になりました。だんだん寒くなってくる時期なので、体調管理に気を付けましょう。今月は、**喘息**について紹介します。

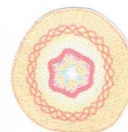
喘息は咳込むためのどの病気と思われがちですが、肺までを含めた気道(特に気管支)が慢性的なアレルギー性の炎症を起こしている病気です。



健康な人の気道



喘息患者の気道
(症状がないとき)



喘息患者の気道
(発作時)

喘息の症状

主な症状として、咳・たん、喘鳴(ゼーゼー・ヒューヒュー)、息苦しさなどが現れます。最近では咳だけの咳喘息の方も増えています。



息が苦しくて
話ができなくなる



呼吸困難により
歩けなくなる



唇と爪が青くなる

重度の発作症状です。
このような症状が出たら
すぐに医療機関へ!!

「喘息は、子供の病気でしょ」と思われている方も多いのではないのでしょうか?

最近では、成人してからや中高年になって初めて喘息発作を自覚される方が増加しています。

長引くカゼは喘息かもしれません! 早めに医療機関を受診しましょう★

喘息の原因



カゼを引いた時は、カゼを引いた当日より症状が一段落した2~3日後の方が喘息発作が起きやすい事に注意しましょう!

■ 発作の起こりやすい時間帯

夜から早朝にかけて起こりやすくなります。寝ている間は昼間より呼吸する量が少なくていいので自然と気道が狭くなります。そこに朝方の冷たくなった空気を吸い込むと気道がいっそう狭くなる為、室温を一定に保ったり、マスクで保温と加湿を心がけましょう。



喘息の治療

| 発作の時に使う薬 (レリーバー) | 発作を予防する薬 (コントローラー) | |
|----------------------|-----------------------|----------------------|
| 短時間作用性 β_2 刺激薬 | 吸入ステロイド薬 | ロイコトリエン受容体拮抗薬 |
| | | |
| | テオフィリン徐放製剤 | 長時間作用性 β_2 刺激薬 |

喘息発作が起こらないようにする予防薬(長期管理薬)と発作時に使う薬(発作治療薬)があり、薬の動きの面からは炎症を抑える薬と狭くなった気管支を広げる薬に分けられます。

治療は発作が起こらないように長期管理薬を毎日続けることが大切です